

vol.
170

と www.tenpla.net
プラネタリウム

前号のこのコラムで参加報告をした、世界天文コミュニケーション会議2018 (CAP2018)。50を超える国と地域からの参加者が集い、天文学の楽しみを共有するための多くの実践報告やアイデアを紹介しあい、議論し、将来に向けた新たなネットワークを作る会となりました。

筆者(平松)は、業務であるアルマ望遠鏡の広報活動の実際について発表しました。遠くチリにあるなじみの薄い電波天文台の魅力に触れてもらうため、twitter (@ALMA_Japan) の活用やデザインの力を借りて電波画像をオルゴールにするという試みを行っていることを紹介。そして、社会の中に受け入れられた例として、アルマ望遠鏡にちなんで名づけられた日本のロックバンド ACIDMAN の曲「ALMA」や京都のカフェ ALMA、原始惑星系円盤の観測画像にインスパイアされて生まれた婚約指輪

今月のお題

.....

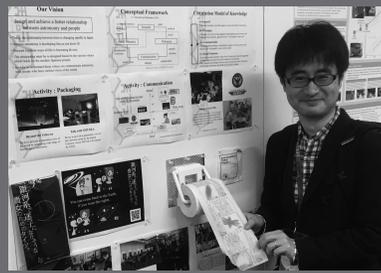
CAP2018に参加してきました その2

3月に福岡市科学館で行われた国際会議CAP2018に参加してきました。今回は、平松の視点からのご報告です。

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

ALMAを挙げ、科学的な切り口以外での楽しみ方が広がっていることをお話しました。

自分の発表以外で印象に残ったのは、マンガで科学ニュースを伝えるワークショップ。5人ほどのグループを作り、その場で渡された天文ニュースを表現するマンガを20分ほどで描くのです。私たちのグループに割り当てられたのは、木星探査機ジュノーが明らかにした木星のふしぎな風のニュース。みんなで議論して、「ジュノーくんがサーフィンをしに木星に行ったのに、おかしな風が吹いててびっくりしている」というさまを擬人化マンガで描きました。ニュースの重要な点は何か、どんな例えならより多くの人にわかってもらえるかなど、頭をフル回転させたワークショップでした。私はサーフィンをやったことがないのでそもそもこんなアイデアは浮かばなかったのですが、様々な経験を持つ人が一緒



天プラ紹介ポスターの定番、アストロミカルタイムレットペーパーを手にする筆者。

に考えることの大切さにも改めて気づかされました。

他にも、架空の巨大望遠鏡の広報担当になって広報戦略を練るワークショップや、3Dプリンタで作った立体銀河モデルを使った触覚で理解する天文学教材のワークショップなど、内容は盛りだくさん。イギリスやイタリア、オーストラリアの電波望遠鏡広報担当者や、世界的な電波天文普及教育のためのネットワークを作ることに合意しました。仲間を見つけて元気をもらい、具体的な次の一歩を踏み出した、とても有意義な会議となりました。